

2011年3月12日

国連グローバル・コンパクト事務所、国連ウィメン共催会合  
平等推進とビジネス—女性のエンパワメント原則

参加報告書

研究員 大西 祥世

## 1 概要

会議名：平等推進とビジネス—女性のエンパワメント原則

主催：国連 GC 事務所、UN Women

日程：2011年3月9日（水）、10日（木）

場所：アメリカ合衆国ニューヨーク市、ニューヨーク州立大学グローバルセンター

出席者：潘基文国連事務総長、ゲオルグ・ケル国連 GC 事務所事務局長のほか、国連機関、民間企業 CEO および役員、国際 NGO、研究機関から参加（招待者に限定、約 170 人）

## 2 内容

(1) 会合に先立ち、会場にて国連 GC 事務所のゲオルグ・ケル事務局長ならびに本会合担当者のウルスラ・ウィンホーベン事務局長補佐、ローレン・ガーラ氏にご挨拶をした。国連 GC 事務所側より、研究センターの重ねての参加を歓迎すると述べられた。また、女性のエンパワメント原則（WEPs）への署名日本企業の多さおよび日本政府の積極的な関与を歓迎し、これまでの他の機会に、国連 GC 事務所と GC-JN の有馬利男議長とで、岩田喜美枝資生堂副社長らと協力して WEPs を日本国内で推進していくことで話し合われた事情を話された。

(2) アジアからの参加者は、研究センターが唯一の参加者であった一昨年、昨年の会合と比べると格段に増加した。日本からは研究センターの大西のほか、三浦聡名古屋大学大学院教授が参加した。アメリカ現地からは、パネリストとして、住友化学アメリカの佐合社長が参加した。その他、日本政府国連代表部の西田大使、木村公使、照内一等書記官、JETRO ニューヨークの佐藤所長、日経アメリカの刀祢館社長、高井マーケティング部長、資生堂アメリカの譲原副社長、NTT docomo USA の前田 CEO、ドミニコの古谷主席アナリスト、山口リサーチ・アソシエイトが参加した。また、韓国から、GC-KN のイ・ユンキュン人権・PR 部長が参加した。

(3) 本会合は国際女性の日 100 周年を記念したものとなった。2 日間の会合を通じて、企業が職場、市場、コミュニティおよびその他改善が求められる領域において女性のエンパワメントを前進させるため、WEPs をどのように運用するか、活発に議論された。

第 1 日目は、WEPs 策定後 1 年間の実績が検証された。まず冒頭に、潘基文国連事務総長が出席して開会挨拶を行い、WEPs を用いてビジネスにおける男女平等を推進し、社会をよりよくすることが呼びかけられた。会合では、WEPs を指針に企業がより一層男女平等に取り組むこと、グッド・プラクティスを共有すること、これらに対する政府の積極的な支援が求められることがパネリストから報告され、議論された。また、民間企業に女性取締役を登用するクォータ制を法律に定めることの重要性も指摘された。

第2日目はWEPsをさらに活用するための方策を検討するワークショップが行われた。パネリストから、男女平等と女性のエンパワメントを推進するために効果的なツールが報告され、議論された。たとえば、女性の取締役および管理職への登用を増やすために専門的および技術的な研修を実施すること、トップがリーダーシップをとり強力に関与する社内委員会を立ち上げること、透明性を確保して従業員および管理職の人数ならびに賃金等の男女別の統計を公開・報告すること、進捗状況を公開・報告する際は政府および国際機関やNGOの支援が有効であること、WEPsが企業のこうした取組への地図・指標となること、政府の政策とトップの実践が企業を強力にバックアップすること等である。

(4) なお、第1日目のレセプションはフィンランド政府国連代表部と日本政府国連代表部のホストで開催された。日本の西田大使からは、co-hostの機会をもち、多くの参加者ととも女性のエンパワメントへの関心を共有できることは光栄であるとともに、日本政府はこれまでも途上国支援の取組においてジェンダーや女性のエンパワメントへの課題に関与してきたが、今後ますます深めていきたい旨のご挨拶があった。

(5) 会合の合間に、日本政府国連代表部より、今後WEPsやUN Womenと連携を深めるための方策について研究センターと意見交換を行いたい旨のお話があった。そこで、10日(木)18時から1時間程度、同代表部事務所にて、木村公使、照内一等書記官とお目にかかった。また、9日のレセプションにおいて西田大使にご挨拶した際に、同大使より、日本企業はこの分野では遅れていると国際的にみなされているが、今後WEPs等を推進して状況を改善していけばむしろ他の国のよいお手本になれるので、積極的に進めていきたいとのご意見が述べられた。

### 3 今後の課題

(1) 今回の会合でも、企業がビジネスにおける男女平等と女性のエンパワメントを推進しようという熱気と熱意を直接に感じとることができた。WEPs署名企業数が世界第2位のブラジルからの報告・参加が多く、同国の大企業および中小企業での男女平等推進の取組やそれを支援するルラ前大統領およびルイス現大統領のリーダーシップのインパクトが強調され、印象に残った。研究センターとして、今後も調査を続行するべきであると思われた。

(2) 国連GC事務所とUN Womenは、今後、企業やステークホルダーから提案を求め、3月29日に開催される男女賃金格差の是正とワーク・ライフ・バランスに関するウェブ会議をはじめ、WEPsを具体的に推進するための対話、検討、協議を深めるとのことであった。引き続き、こうしたプロセスに注目して研究を深める必要がある。

(3) また、両機関における、日本企業ならびに政府への期待がかなり高まっているという印象を受けた。GC-JNもこれに応えるようであり、UN Women日本事務所も積極的に関与するようである。政府のこれへの支援も国内外で動きがある。今後の展開が期待される。

(4) GC-KNのイ人権・PR部長によると、KNは来月に、韓国のGC加盟企業を対象としたWEPsに関するセミナーを開催するとのことである。東アジアでのWEPsの拡がりに注目して研究上の連携を深めたい。

以上